

恵風だより



令和2年9月3日発行 No5

定着する「コロナ禍」

校長 坂井 廣幸

今年はいつ梅雨が明けるのかと思っていたところ、梅雨明け宣言もなしに、いきなり異常に暑い夏がやってきました。本校は8月17日に夏休みが明けて学校が再開しましたが、このつらい暑さです。そして、今年暑さ以外につらいのは、コロナウイルス感染症対策のため、マスクを外せないことです。30度を超える真夏日にマスクをすれば、熱中症を誘発する恐れがあります。コロナ感染予防と熱中症対策というダブルの敵に対峙しなければいけないという、これまでにないつらい夏です。

しかし、これまで不思議だったのは、感染者が全国に拡大していく中で、岩手だけがコロナ感染者ゼロの日が続いたことです。5月には「なぜ岩手は感染者ゼロ？」と話題になり、それだけ人口密度が低いからだとか、どこよりも距離を保って会話をするからだなどと、理由にならないようなことがささやかれ、ここまできたらどこまでも感染者ゼロを貫いてほしいとはかない願望を抱いておりましたが、やはり7月29日に感染者が出てしまいました。「とうとう岩手にもコロナ感染者！」で記事になるのも不思議でしたが、感染者が出たことで県内には緊張感が走りました。本校は感染症にかかると重篤化する恐れのある児童生徒が在籍していますので、より念入りの感染症対策が望まれます。

さて、このコロナウイルス感染症についてのニュースが毎日途切れず報道される中で、国内のコロナ報道で気づいたことがあります。それは「コロナ禍」という言葉が徐々に一般化しつつあることです。

「禍」という漢字は、「禍転じて福となす」の「わざわい」ですので、「コロナ禍」の意味は「コロナウイルス感染症の流行による災難や危機的状況、それによる影響」というところでしょうか。テレビのニュースなどでコロナ感染症に注意した生活や対策を今後考えていく話題を提供するときによく使用されているようです。何度も耳にするので、「コロナか」とニュースで言われて「禍」という漢字が浮かぶようになってきたところではあります。

コロナウイルス感染症が今後も流行していくのか、または収束していくのか現在予測が難しい状況にあります。生徒が多数感染する事例も出てきており、島根県の私立高校の寮では約100人規模のクラスターが発生しました。現在、このコロナウイルスのワクチン開発が世界各国で進められているようですが、早く「通常の」日常がやってくることを望むばかりです。



令和2年度の全校朝会

今年度の全校朝会は、テレビ放送で実施しています。当初は、学級ごとに視聴していましたが、6月からは、学部縦割りのグループごとに、3密に気を付けながら各教室に分かれて視聴しています。また、縦割り活動としてゲームなども行い、学部を超えた交流を深めています。



大きく育った ひまわり

小学部4年生が花壇に植えたひまわりが、夏休み中にまぶしい日差しを浴びて大きく育ちました。高さは、なんと180cmを超えました。

高等部2年3組の花壇のひまわりも同じように大きく育ち、力強く咲き誇っていました。



高等部校外学習

1年生は、7月10日（金）に実施しました。新型コロナウイルス感染症予防のため、宿泊学習に代わる行事として実施しました。行き先は、釜石方面。イオンタウン釜石やシーブラザ釜石で班別研修を行いました。入学してから3か月、1年生の絆が深まっていました。

2年生は、8月25日（火）に宮古市内で実施しました。横山八幡宮、魚菜市场など、友達と一緒に訪れることで新たな発見や楽しみを見出していました。昼食には、宮古名物瓶ドンを選ぶ生徒もいました。



中学部作業実習

8月31日（月）から、2回目の校内実習が始まりました。今回の実習期間は2週間です。9月15日（火）のマリンコープDORAでの販売会に向けて、みんなで協力して取り組んでいます。

